

認定こども園せんだい幼稚園 園長 田原 慎也  
[http://www.s-kinder.com /index.html](http://www.s-kinder.com/index.html)

## ●11月のひとコマ

### 生活発表会を行います



<年中児:縄跳び遊び>



<年長児:育てたお米を脱穀>



<年長児:育てたお米を炊く>



<年長児:育てたお米を食べる>



<年少児:ピカピカを目指して>

\*\* 今年の発表会はクラスごとに観覧の方が入れ替わりますので、開会前のご挨拶をする時間がとれません。そのため、この文章をもって発表会開催にあたってのご挨拶とかえさせていただきます \*\*

12月8日・9日・10日には生活発表会を行います。発表会といっても園によってもそのスタイルはさまざまです。当園も数年前では昔話などをモチーフに子どもたちとセリフや動きを考えながら「劇仕立て」の発表会を行っていましたが、子どもたちだけで考えるセリフではやはり意味がわかりにくいところもある…。見に来て下さる方からはわかりにくいと「あまり良くない発表」だったと言われることもある…。そうしてわかりやすさを求めて、少しずつ大人の手が加えられていく…。

20年ほど前。保護者の方から好評だったマーチングをやめたときにも同様の葛藤があったようです。保護者の方からは「マーチングが楽しみだ」と常に期待の集まる一大イベントだったようですが、マーチングの練習が終わると、「ねえ、先生もう遊んでいい？」と聞いてくる子どもたち。そして、本番当日の「うまくてきたね」という評価をもらうためにひたすら決められたことを繰り返し練習する日々。そこには子どもたちが自分で考え、みんなで協力し合い、自分なりに工夫するといった余地はまったくないのが現状です。

そんな変遷を経て、現在の発表会は子どもたちが楽しんできたこと、興味を持って取り組んできたことを発表する場として位置付けています。その日のために新たな何かをするということではなく、今までの生活からピックアップして発表するので「生活発表会」と名付けています。そのため、劇仕立ての発表会や他の園の発表会と比べると、なおさら「見栄え」のないあっさりしたものに映るかもしれません。子どもたちが日々楽しんでいることの文脈から切り離して、【大人にとって見栄えの良い発表会】の練習をさせることの無意味さに気付けたからこそ、今の発表会の形があります。

「決められた何かをみんなの前で発表する自分」をほめられるのももちろん嬉しいとは思いますが、でもそれより、自分が自信をもってやってきたこと、興味を持ってきたことを発表すること、そして当日はうまく発表できなかったとしても「こんなことががんばってきたんだね」とその子そのものをひっくるめてほめてあげられる！日にしてあげたほうが、よっぽどその子は自信をもって前に進んでいけるんじゃないかなと思っています。(中には意味がわかりづらい場面もあるかと思いますが、子どもが話し合っただろうなあとという気持ちで見て頂けるとありがたいです。)